

サービス改善計画書

策定日：令和6年1月15日
 事業・サービス名：保育所
 施設・事業所名：大津市立和邇保育園

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
A-1-(1) 全体的な計画が編成されている	b	○園の保育理念や基本方針、目標に基づいて年間計画をたて、保育を進めているが、家庭及び、地域の実態が大きく変わらないことから、今年度は見直しを行っていなかった。	○年度当初に「大津の基準となる全体的な計画」に基づき、家庭の状況や地域の実態、子どもの発達過程を考慮して職員で検討し、見直す。	令和6年度4月	園長 代表保育士 主査	
A-2-(1)② 一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている	b	○今年度は「人権擁護のためのセルフチェック」を用いたグループワークや、「子どもの内面理解」のために学習会を実施し、一人一人の子どもにより丁寧に関われるよう学びを深めた。学んだからこそ、再度一人一人の職員が自分の関わり方に目を向け反省し、より丁寧に、せかしていないか、わかりやすい言葉遣いであるかなど見直すきっかけとなった。	○来年度も学習会や人権研修を通して、より一人一人の職員が保育の質の向上に向けて実践し、よりよい保育を進めていく。	令和6年度中	園長 代表保育士 担任	
A-2-(1)⑥ 1・2歳児の保育において養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	b	○園内研究や学習会などの学びから、一人一人の自我の育ちに目を向け、より丁寧に子どもの内面に寄り添った関わりが必要であると考え。異年齢交流も行っていたが、もっと積極的に進めていくべきであったと考える。	○職員間でより主体性を育む保育の展開や内面に寄り添った保育について園内研究を深め、実践していく。また、異年齢交流では、意図的に交流をもつ機会を計画的に入れていく。	令和6年度中	園長 代表保育士 担任	